

平成 26 年度八潮市行政評価における 外部評価報告書（抜粋）

番 号	7		
事 業 名	雨水幹線整備事業	担 当 課	下水道課
事業目的	・下水道（雨水）幹線の整備を行い、治水安全度の向上を図り、安全で快適な都市環境を形成する。		
事業概要	・下水道（雨水）幹線の整備を行う。		

（１）事業の評価に対する評価

必要性、目標達成度、実施内容・方法及び公平性の評価項目について、外部評価委員が5段階評価を行った結果は、次のとおりである。

評価項目	担当課の評価	委員会の評価 (平均点)	委員会の点数内訳（5段階評価）				
			5点	4点	3点	2点	1点
①必要性	高い	4.4	3人	1人	1人		
②目標達成度	達成できなかった	3.2	1人	1人	2人		1人
③実施内容・方法	余地がある	3.4	1人	1人	2人	1人	
④公平性	余地が全くない	4.2	2人	2人	1人		

（２）総合評価に対する評価

担当課の総合評価（最終目標に対する進捗状況）である「概ね順調」に対して、本委員会が適切であるかについて評価したところ、4点が1人、3点が2人、2点が2人の合計14点となり、「C：概ね適切な評価」であった。

(3) 事務事業評価に対する主な意見

- ① 市民の安全のために必要な事業であるため必要性の評価は妥当である。
- ② 市に実施が法的に義務付けられていること、市民の生命・財産等に大きな影響を与える恐れがあること、まさに「公共事業」であり、民間が行うことではないことなどを考えると、必要性は「非常に高い」とした方が良いように思われる。
- ③ 活動指標については適切である。また、成果指標についても本来は「浸水回数」等にすべきであるが、その指標が天候等に左右されやすいものであり、指標として提示することが困難であることから、整備率を設定したとの説明があった。非常に適切な指標である。また、年度ごとの工事完成ができていないようであり、「目標を達成できなかった」との評価は適切である。
- ④ 国の補助金を最大限活用しつつも、コスト削減の工夫を考えていることから実施内容・方法の「余地がある」という評価は適切である。
- ⑤ 雨水＝公費／汚水＝私費ということから、本事業については、受益者負担の見直しの余地がないと理解した。むしろ、「非該当」という評価でもよいと思われる。
- ⑥ 担当する部署としては、やるべきことはやっており、獲得できた予算の枠の中で進められることは理解できる。しかし、年度を繰り越した工事が続いており、最終完成年度の見直しが必要となっているということは、「遅れ」として評価すべきであろう。
- ⑦ 総合評価で「概ね順調」としている点は目標達成度の評価と矛盾し、納得しかねる。最終目標を達成することが難しいことも認識されているので、「遅れ」と評価するべきではないか。

(4) 今後の方向性について

担当課の今後の方向性は、「現状のまま継続」であるが、本委員会の意見としては、「現状維持」が多く、「重点化」の意見もあった。このことから、現在の事業内容を維持しつつ、重点化についても検討してほしい。

(5) 当該事業に対する主な意見

- ① 国の補助金等調整が難しい問題もあり、整備スケジュールの変更や見直しによる繰越工事は概ね理解できる。
- ② 必要となる予算の規模が大きく、思うように予算を確保できない難しさがあり、その枠の中では十分に工事を進捗させているといえる。
- ③ 継続する事業であり、予算、区画整理事業、自然環境等、色々な対応もあるので、多少の見直しも考えながら進めてもらいたい。

事務事業評価シート(対象:H25年度実施事業)

事務事業名	雨水幹線整備事業		所属コード	1702000		位置付け	■主要事業		協働事業		市長公約	
実施の柱(章)	1	かいいてき	部	建設部		実施主体	●市	●県	●国	その他		
大施策(節)	7	都市を支え都市と共生する水・河川環境づくり	課	下水道課		継続年数	5年以下	6~10年	11~15年	●16年以上		
基本施策	1	治水対策の推進	係・担当	計画工務係		根拠法令等	●有 [都市計画法、下水道法] 無					
予算科目	会計	03	款	2	項	1	目	2	事業	事業の対象		
									内線	345	市民の一部	
											その他 [内部職員]	

事業目的	<p>・下水道(雨水)幹線の整備を行い、治水安全度の向上を図り、安全で快適な都市環境を形成する。</p> <p>事業概要</p> <p>・下水道(雨水)幹線の整備を行う。</p>
------	---

単位:円	H24決算	H25予算	H25決算	H26予算
事業費(A)	33,978,216	229,623,056	151,575,359	301,900,000
委員報酬				
物件費				
維持補修費				
扶助費				
補助費等				
普通建設事業費	33,978,216	229,623,056	151,575,359	301,900,000
その他				
国庫支出金	8,000,000	79,700,000	70,500,000	147,400,000
県支出金				
市債	8,000,000	79,672,000	70,472,000	149,300,000
その他	660,244	92,820	53,130	79,000
一般財源	17,317,972	70,158,236	10,550,229	5,121,000
職員数(人/年)	0.80	0.75	0.65	0.67
職員人件費(B)	6,849,146	6,376,500	5,361,200	5,712,420
総事業費(A+B)	40,827,362	235,999,556	156,936,559	307,612,420
人件費率(B/(A+B))	16.8%	2.7%	3.4%	1.9%
予算執行率(職員人件費除く)	—	—	66.0%	—

事業の実施状況(見込み)	平成24年度	平成25年度
平成24年度	<p>・葛西排水区の雨水幹線築造工事を実施し、年度内に完成できずに平成25年度に繰越した。</p>	<p>・葛西排水区の雨水幹線築造工事は平成24年度の繰越し工事が完成し、平成25年度の工事は、年度内に完成できずに平成26年度に繰越した。</p> <p>・南川崎排水区排水樋管築造負担金を支出した。</p>
平成25年度	<p>・葛西排水区の雨水幹線築造工事は平成25年度の繰越し工事は平成26年度の工事を予定している。</p> <p>・南川崎排水区排水樋管築造負担金の支出を予定している。</p>	
平成26年度		

活動指標名	単位	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度
整備延長	k m	計画	0.05	目標	31.7
		実績	0.05	実績	24.7
				目標	
				実績	

■事業の評価 (H25年度の事後評価)

①必要性の評価

当該事務事業について市が関与する必要性		評価者名	荒川 俊
A:非常に高い		● B:高い	
<ul style="list-style-type: none"> 法律、政令、省令、通達等により、市に実施が義務づけられている 事業を止めた場合、市民の生命、財産等に大きな影響を与える恐れがある サービスの拡大や充実を求める市民意見・要望が増えている 市が何らかの関与(監督、指導等)をしないと、問題が発生する可能性がある 当該事務事業が解決すべき課題が増えている。増えることが予想される その他 		C:ある程度認められる	
判断理由			

②目標達成度の評価

H25年度の目標達成度		● C:達成できなかった(80%未満)	
A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)	
<ul style="list-style-type: none"> 活動指標の目標を達成した 業務改善方針等の指標に現れない目標を達成した 		● 成果指標の目標を達成した	
達成できなかった内容/できなかった内容・理由(必ず記入)			
判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 年度内に工事完成できずに平成26年度に繰り越し工事となった。 		

③実施内容・方法の評価

成果向上やコスト削減のための見直しの余地		● 余地がある	
A:余地が大きい		● 余地が全くない	
<ul style="list-style-type: none"> 民間委託や指定管理者制度の活用などの事業手法を再検討する余地がある 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫が考えられる 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化することが考えられる 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直すことが考えられる 成果を高める工夫が考えられる その他 			
判断理由			

④公平性の評価

受益者負担の見直しの余地		● 余地が大きい	
A:非該当		● 余地がある	
<ul style="list-style-type: none"> 利用者(受益者)が、一部(特定)の市民に偏っている 使用料・手数料等の料金設定を市で行うことができる 国や県、民間事業者等が同種・類似サービスを提供している 受益者の負担割合が同等の定めている基準を下回っている 使用料・手数料等の見直しから5年以上経過している 		● 余地が全くない	
判断理由			

■計画期間を通じての課題と対応策

評価時点で認識されている問題・課題		● ある程度課題がある	
A:課題はほとんどない		● 大きな課題がある	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 街路事業や区画整理事業者との整備スケジュールの事業調整により、整備計画の変更が生じる。 		
考えられる対応策	<ul style="list-style-type: none"> 柔軟な施行体制の強化を図る。 外部委託の活用を図る。 		

■総合評価 (最終目標に対する進捗状況)

☆☆: 順調 (最終目標達成に向け、順調に成果があがっている)	
☆☆: 概ね順調 (最終目標達成に向け、やや遅れているが概ね順調)	
☆: 遅れ (このままでは、最終目標の達成が難しい)	
総合評価	判断理由
☆☆ 概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度の工事が年度内に完成しなかったが、平成26年度内に完成予定である。

■今後の方向性(計画期間を通じての方向)

方向性		● 現状のまま継続		● 休止・廃止		● 終了・完了	
A:見直して継続		● 見直して継続		● 他事業と統合して継続			
→		重点化(拡充)		手段を改善		効率・簡素化	
経営資源(H26年度比)		増加		増加		削減	
		● 現状維持		● 現状維持		削減	
今後の実施方針(改善方針)		<ul style="list-style-type: none"> 今後も街路事業や土地区画整理事業の進捗に合わせ整備を効率的、効果的に行う。 					